

Polaris

長町南小学校 第6学年通信

NO. 3

2020. 4. 28 (火)

6年生 家庭での学習の進め方について

今回は、家庭でも一人でできる勉強の進め方について紹介します。高学年なので、場合によっては、自分で工夫して勉強を進めていくことも大切です。勉強の基本中の基本は、国語です。今日は、教科書に最初に登場してくる「詩」や「物語」の学習の進め方についてです。

※準備物…国語の教科書、国語のノート、国語辞典・漢字辞典

◎詩「いのち」の学習の進め方(例)

①詩を読む。

▽「いのち」音読をする。

- ・1回目…大きな声で読む。
- ・2回目…つかかからず(正確に)、間(速さ)を取って読む。
- ・3回目…書かれている場面を思い浮かべながら、気持ちを込めて読む。

②詩を書く。

▽ノートに視写をする。

- ・文字の大きさや画数、へんとつくりのバランスなどを考えて、丁寧に視写する。
- ・連と連の間は1行開けて書く。(1行空いているまとまりが連)

③書かれていることを確認する。

- ・分からない言葉があったら、漢字辞典で読み方を調べたり、国語辞典で意味を調べたりする。(調べたことは、視写したノートに書き込みをする。)
- ・構成を確認する。(何連構成か。起承転結になっているか。)
- ・詩の技法を確認する。「いのち」で使われている技法は「リフレイン(繰り返し)」と「対(ついで) …対の例→「天は裂け、地は震えた。鳥は黙し、花は枯れた」。
- ・視写したノートに技法が使われている箇所に線を引く。

④作者の意図について考える

- ・「いのち、からだ、こころ」が「命、体、心」のように、漢字ではなく、ひらがなで表されているのはなぜか。
- ・詩の主題(作者がこの詩を通して伝えたかったことは何か)は何か。
- ・ノートに自分の考えを書く。

⑤暗記する

- ・何度も読んで、作品を暗記する。

「いのち」だけでなく、教科書の次の不朽の名作「生きる」の詩の読み取りでも有効な方法です。やれる人は「生きる」や別の詩でも同じように取り組んでみましょう。

◎物語「サボテンの花」の学習の進め方（例）

①全文を音読する。

- ・短い作品なので、2回読む。

②作品を読んだ感想を書く。

- ・心に残ったことは何か。好きな場面はどこかなどについて、ノートに書く。

③場面分けをする。

▽物語の場面は、次の変化が起こったときに分かります。

- ・「時」の変化、「登場人物」の変化、「場所」の変化、「状況」の変化（例…敵同士だった関係が、味方同士になる。貧しかったのが、お金持ちになる…など。）

※「サボテンの花」は4場面に分かれる。（場面の分け方は1種類ではありません。自分なりに分けてみましょう。）区切りの線を直接、教科書に線を引いても構いません。

- ・分からない言葉があったら、漢字辞典や国語辞典で、読みや意味を確かめる。
「ためらう・炎熱・砂じん・あえぐ」など…。

④あらすじ一文まとめをする。

- ・いつ（時）、だれが（登場人物）、どこで（場所）、何をした（状況）というように、ノートに書いてまとめる。例…「サボテンは赤い砂ばの中で、1つの意思のようにならなくて立っていた。」

⑤物語の構成を考える。

▽物語は「設定」「展開」「山場」「結末」に分かれる。

- ・設定…「時」「登場人物」「場所」「状況」が書かれている部分。
- ・展開…事件が起こる。「ある日」などと書かれる。山場に向かって物語が進んでいく部分。
- ・山場…登場人物同士の関係や、中心人物の状況や考え方が大きく変化する部分。
（変化が確定する部分をクライマックスという。）
- ・結末…山場のその後の様子が書かれている部分。

※物語によっては「設定」が省略されたり（例…大造じいさんとがん）や「結末」が省略されたり（例…ごんぎつね）するものもあります。区切りの線を直接、教科書に線を引く。

⑥主題を考える。

- ・主題は「山場」に書かれている。

※主題にはその作家の人生が大きく反映します。作者は「アンパンマン」で有名な「やなせたかし」さんです。物語におけるサボテンは、アンパンマンの分身と言ってもよいでしょう。

さて、この「サボテンの花」という作品を通して、やなせたかしさんが我々読者に訴えたかったのはどんなことでしょうか。ノートに書く。

⑦「やなせワールド」に親しむ。

- ・まんがのアンパンマンだけでなく、やなせたかしさんは、詩もたくさん書いています。インターネットなどで調べて、やなせたかしさんの名言をノートに視写してみるのもオススメです。

この物語の学習の進め方は、他の物語でも有効な方法です。5年生の「大造じいさんとがん」をこの方法で読み取っていくのもよいでしょう。

まずは、国語の教科書を開いて目を通してみましょう。順番通りでなくて構いません。興味を持った部分だけでもいいです。気に入った部分は、声を出して読んだり、暗記したりしてみましょう。

臨時休校が延長された場合は、次回は、「算数」や他の教科の家庭学習の進め方について紹介します。テレビやインターネットも上手に活用して学びを深めてください。